

第 3 4 回 滝川市環境市民委員会の開催結果について

開催日時	平成 2 4 年 1 2 月 1 8 日(火) 午後 4 時 0 0 分～午後 5 時 3 0 分
開催場所	滝川市役所 3 階 3 0 2 会議室
出席状況	<p>【委員】</p> <p>出席：石井委員長、伊藤副委員長、岩本委員、檜原委員、中村委員、松井委員、水戸委員、山田委員</p> <p>欠席：加藤委員、藤井委員</p> <p>【事務局（滝川市）】</p> <p>市民生活部 石川参事</p> <p>〃 暮らし支援課 配野課長、橋本副主幹、畠山主事</p>
議事内容	<p>1 開会</p> <p>2 ．評価報告書の内容について</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>前回会議までの経過</p> <p>第 3 3 回委員会(9 月 6 日開催)では、市が公表する年次報告書に基づき平成 2 3 年度の取り組み内容を説明するとともに、委員会から市長へ提出いただく評価報告書とその資料として添付する計画期間中の取組を整理した評価シートの各案のイメージを提示し、それらに関して討議が行われた。その議論をベースに、事務局では委員長の確認をいただきながら、委員会としての評価報告書（評価シートを含む）の素案をとりまとめ、各委員には会議開催前に事前送付したところである。</p> </div> <p>評価報告書の素案（資料 2 及び資料 2 - 1 ～ 2 - 4 ）について、事務局から説明を行った。なお、評価シート（資料 2 - 1 ～ 資料 2 - 4 ）の評価欄には市としての自己評価点を原案として記述しており、それぞれの妥当性等も含めて確認・検討をいただいた。</p> <p>委員長）資料 2 - 1 の一番下の地域企業、関係機関等との環境関連事業推進検討研究会の立ち上げというのはどういったことをイメージしているのか？</p> <p>事務局）例えば、いきなりそういった事業の構築というのは難しいかもしれないが、廃棄物だけでなくエネルギーのことも含めて何らかの環境関連事業だとかの可能性などについて検討していく場を作っていきたいと考えている。今年は市役所内で職員による材料集めをしているので、来年度以降はそれを民間事業者等を交えた議論に発展できればと考えている。</p> <p>委員長）この評価シートでは、それぞれのシートごとに各取組が記述されているが、中には、本来はシート間でもっと連関性があるべきものも含まれている気がする</p>

る。例えば、ごみ減量化のなかで生ごみを減らすために食べ物を粗末にしないようにしようという取組というのは、食育に関する話として資料 2 - 3 のシートに関わってくる事項でもあるし、同じように、農業環境の保全ということで農家の方々が農地や農道のごみ拾いをみんなで取り組んだという話は農業の話というほかに、資料 2 - 1 のごみの話にも関係してくる。それから資料 2 - 3 で、軽トラ市なんかは、かなり集客力があるようだが、そういったものと資料 2 - 4 の（参加者集めに苦労している）環境市民大会や環境学習リーダー養成講座などを組み合わせるだとか、一つの取組を一つの物語に対応というのはなく、シートを串刺しするように考えていく方が広がりが出ると感じた。例えば、今まで川でやっていたことにごみの視点を入れてみるだとか、環境市民大会でやっていたところにごみの視点を入れてみるだとか、わざわざ新しいことに取り組まずとも、今までやっていたことの視点を変えていくということも大事だと感じた。

委員）今年、教育ファームという事業を行ったが、内容としては小学生に対する教育の面もあり、農業の振興という面もあり、食育という面もあり、複合的な目的を有する取組なのだが、市の担当は健康づくり課のみが対応し、結局担当になった部署だけが苦労をしていた。また、子供たちは、途中、ふれ愛の里周辺の道を歩いて、自然環境や川のことを学ぶことになり環境問題についても触れる機会があった。だから、もっと幅広く関係する所管が連携してできないのかということを感じた。結局、限られた人員の中で対応していたので、現場は対応に追われ、30 人余りの子供たちの対応に四苦八苦する状況だった。そうした状況を横の連携の拡充で何とかならないのかと感じた。もっと、組織間の連携を密にして一つの事業を多面的に活用するような工夫などもあれば、それぞれがバラバラに新しいことをやるよりも楽にできると思う。

委員長）滝川市の環境イベントカレンダーみたいなものを作って、これを見れば全部、網羅できるようなものを作っても良いのではないか。一度、情報集約の努力はしてみるべきではないか。

委員）資料 2 - 1 にあるリサイクル推進員について、当方の町内会の役員改選があった際に、市役所に照会したら、リサイクル推進員は出さなくてもよいといった回答があったが…。

事務局）この場で詳細は把握していないが、出さなくて良いというよりは、各町内会によっては人手が足りないとか、なり手がなかなか見つからないという状況もあることから、町内会としてどうしても選出が難しいという場合にはそういった結論も致し方ないというニュアンスでのお話をさせていただいたのだと思う。ただ、リサイクル推進員制度に関しては、平成 15 年の発足当初に比べると、市からのアプローチもほとんどなくなっており、実態としては形骸化している部分があることも事実なので、そのあたり、今後、せっかく選任いただいているなかで、市としてもきちんと取り組んでいく必要があると考えている。

	<p>委員長) 滝川市だけの問題ではないが、町内会の活動については、高齢化が進む中で、行政として町内会だけに押し付けて何かをやっていくというのも厳しくなっている。町内会が無理なら、NPOだとかそういった若者たちに動いてもらえるような違う仕組みも考えていかなければいけないということも盛んに議論されてきている。町内会頼みという構造を少し考えていかなければならないという問題提起ではないか。</p>
	<p>委員) 教育現場からの視点として、滝川市がこれだけ環境問題に目を向けて取り組んでいるという認識がこちら側にまで浸透していないと感じた。その要因としては情報が不足していることが挙げられる。子供たちにとって大切な学習分野なので、身近なごみ処理問題から省エネの問題まで、もっと教育委員会と連携を図って、滝川市の取組等に関する資料などが提供されてくると、各学校も認識が高まるのではないかと。市職員による小学校に対する出前授業なども実施されていたが、そうした取組も含めて今後、拡充していくことも必要ではないか。学校側としても取り組んでいきたいという意向もあるので、今後の対応をお願いしたい。</p>
	<p>事務局) 教育の現場サイドからそういったことを言っていただけることは非常にありがたい。</p>
	<p>委員長) 今の委員の意見を聞いていて、前々から思っていたのは、ごみ分別なんかでは、子供が習ってきて家庭内で実践するようになれば親も一緒にやるようになるという例がたくさんある。学校の先生に対しても、先生向けの研修会というか、先生が来やすいイベント等を実施していくようなことも考えてはどうか。先生たちは、日常、忙しいなかで難しい面はあると思うが、先生たちが参加してみようという気にさせるようなイベントを工夫してみて、まずは興味を持っていただくような取組が必要と感じた。</p>
	<p>委員) そうした勉強をしたいと考えている先生もいるのですが、そのきっかけとして、そのような取組をしていただけると大きな後押しになる。</p>
	<p>委員) 当方でも、所属する事業所として小学校2校に対して省エネ教室を実施したところであり、小学生向けの省エネに関するパンフレットも制作している。目下、皆さんには節電をお願いしているところだが、小学生向けには、子供用すごろくみたいなものも用意し、どうすれば節電につながるのかどうか、子供の興味をひいて、親御さんにも一緒に節電に御協力いただければと考えている。是非、ご協力をいただきたい。</p>
	<p>委員長) ある市の生ごみ対策に関する会議に出席したとき、その時に話題にあがっていたのが未開封の食品廃棄物の多いことだった。我々の世代だと、例えばおいをかいだりしてまだ食べられるのかどうか、ある程度は判断をする術を持っていたのだが、若い世代は賞味期限を絶対的な基準として、それを1日でも過</p>

	<p>ぎていたら廃棄するという判断をする。そういった物が生ごみとして一定の量が含まれているということである。その辺りももう少し減らしていく取組も必要ではないかと。そういった意味では、食育とも関連するが、賞味期限についての適正な知識を普及していくことも必要で、また、食品売り場での表示や説明体制の工夫などの議論は必要となるのではないかと。また、ごみ減量化だけを狙ってもなかなかこれ以上の進展というのが難しいことから、単発の視点ではなく、食品廃棄物に関連して、例えば冷蔵庫に物を詰め込みすぎないことで省エネにつながるとか、総合的な視点で取り組んでいく必要性も感じた。</p> <p>委員) 食品廃棄物の関係で、どうしても消費者というのは、新しければ新しいほど良い、できるだけ新鮮なものをほしいという欲求が強いことから、賞味期限が短めに線引きされていた傾向にあったが、最近、食品業界でもそれを見直そうという動きもあるということなので、もしかしたら、いいチャンスなのかもしれない。</p> <p>事務局) 市としても、市民の日常のごみ減量化という観点からレジ袋削減に取り組んできたところであるが、これに続く、スーパー等での反復的な購買行動におけるごみ減量化の切り口として、具体的に何がごみ減量化につながるのかというのが見えていなかったことから、そうした切り口は非常に参考となる。</p> <p>委員長) クリーン農業というと、昔は、(できるだけ)農薬を使わない農業という意味と解されていたと思うが、最近ではクリーンの範囲が拡大していて、エネルギーや温暖化などをはじめ環境負荷の低減なども視野に入れた意味でのクリーン農業という意味に移り変わっている。そうした観点から、トラクターの燃料はバイオ燃料を使うだとか、ハウスの熱源としてペレットを使うだとか、農業残さはリサイクルして活用しようとかという動きが広がっているのかと思うが、滝川ではそういった検討はできないのか？</p> <p>委員) 例えば、花卉栽培に取り組んでいる農家では、花の開花を遅らせたり出荷時期を調整するのに夜中に照明をあてたりしているので、現状、こういった電球を使っているのかはわからないが、補助金を出すなどして、そういった照明をLED などの高効率照明に転換を促すようなこともクリーン農業の推進につながるのではないかと。</p> <p>委員長) 今のような話は、この4つの物語から、複合的に2つ、3つを組み合わせる位置付けられるような取組になる。今後、そういった視点でいろいろな施策を読み替えるというか、検討していくことで、一つの取組でも効果としてはこれまでの2倍とか3倍になるのではないかと。</p> <p>委員長) 評価報告書の表現について、「2 平成23年度までの取組等に関する評価について」のなかで、「民の力」という表現があるが、これだと単純に「民間」という意味になってしまうので、市民団体やNPO等、具体的に書いた方が良く</p>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

と思う。

委員長)「3. 今後の取組に向けた提言」の2つ目については滝川市の特徴だと思う。

1つ目についても、新しい一般廃棄物処理施設が建設・稼働したとしても、基本的に市民のごみ排出に関する行動が大きく変わるという訳ではないが、一度、原点に戻って仕切り直す必要があるのではないかとということで盛り込んだ。自分たちのごみは市外に運搬した上で処理されているという状況を市民にきちんと理解してもらった上で、ごみ処理への意識付けを再構築していくということが必要だと思うが、そうしたPRというのはどの程度、行われているのか？

事務局) 今のごみ処理システムが構築された平成15年度当時から比べると、そうしたPRは少なくなっているのは事実である。これを機に、例えば、実際に新しい歌志内の焼却施設を見てもらい、滝川からわざわざあの道のりを経て処理されている実態を理解してもらえば、市民がごみを減らそうという意識にもつながっていくことも期待できる。

委員長) そろそろ時間ということだが、評価報告書の素案への修正ということでは、細かな表現修正を除き、大きな変更を要するような意見は出ていなかったことから、今回示された評価報告書案をベースに成案として次回の委員会で市長に提出することとなる。この後のスケジュール等について事務局に説明を求める。

事務局) 評価報告書案については、一部、表現修正の意見が出たことから、事務局で修正作業を行い、最終の判断を委員長にご一任いただくということで皆様の了解をいただきたいが、いかがか？

【 一同、承認 】

それでは、委員長に最終成案をご確認いただくことで、作業を進めさせていただく。次回会議の日程については、改めて調整させていただくこととするが、本年度、最後の委員会なので多くの皆様の出席をお願いしたい。

3 その他  
特になし

4 閉会